

## 1 はじめに

昨年度から小学校において全面実施されている学習指導要領では、理科の目標の見直しを図られ、「実感を伴った理解」という表現が加えられた。また、理科教育改善の基本方針では、観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動など、課題解決のために言語活動の充実を図ることが求められている。

これまでの実践においても、体験活動を重視した学習や問題解決的な学習を行ってきたが、結果について自分なりの見通しをもつことや問題解決のための方法を自分なりに考えること、さらには実験や観察の結果から考えられることを自分の言葉で表現することなどについては、十分にできていないと考えている。

このような中、学習指導要領においても各教科で指導すべき内容として「新聞」が明確に位置付けられた。特に理科の学習では、第5学年の内容B「生命・地球（4）天気の変化」において、天気の移り変わりや、雨雲、台風の雲の様子を調べたりする際に情報収集の手段として新聞を活用することが明記されている。理科の内容と日常生活の現象を関連付けることで児童の興味・関心を高めたり、理科で身に付けた知識や技能を使って、実際の自然や日常生活の現象を考察し、説明する活動を取り入れたりする上で、新聞の果たす役割は大きいと考える。

## 2 実践事例

- (1) 第5学年理科「雲と天気の変化」
- (2) 第5学年国語「新聞記事を読み比べよう」
- (3) 第4学年えびの学「川内川に学ぼう」
- (4) 係活動

## 3 具体的取組

- (1) 第5学年理科「雲と天気の変化」

### ア 単元の目標

- 興味・関心をもって雲の様子を観測することを通して、雲の量や動きは天気の変化と関係があることをとらえるようにする。また、テレビや新聞、インターネットを活用して数日間の天気の様子を調べることを通して、天気はおよそ西から東へ変化していくという規則性をとらえ天気の変化は、映像などの気象情報などを使って予想することができるという考えをもつことができるようにする。

### イ 新聞の活用方法

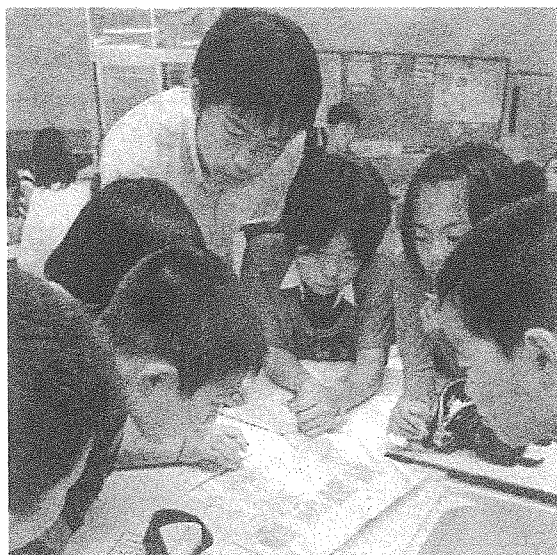
- 新聞各社（宮日、朝日、読売、西日本、毎日、日経）の天気欄から予想図や衛星画像を切り抜き、日付順に並べる。
- 雲画像（衛星写真）を順に並べた資料を見て、天気の移り変わりについて話し合う。
- 気象衛星の雲画像をもとに、次の日の各地の天気を予想する。
- 気象情報に関連する新聞記事を探し、気付いたことを発表する。

ウ 学習指導過程

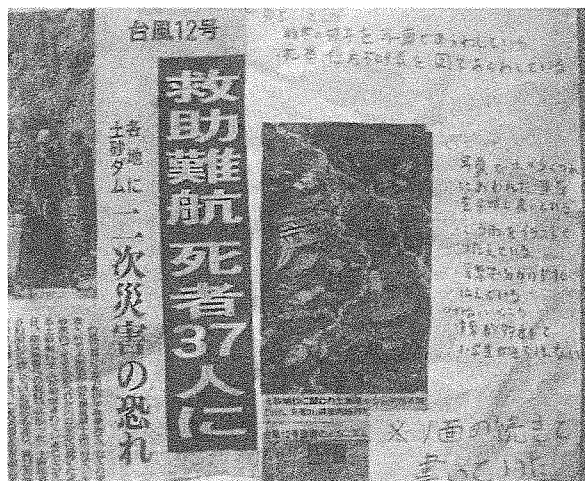
1 本時の目標				
○ 新聞の雲画像をもとに天気の様子について考え、天気はおよそ西から東へ変化していくことを理解することができる。 (知識・理解)				
2 学習指導過程				
				評価
段階	形態	学習内容及び児童の意識	指導上の留意点	準備
みつめる	一斉	1 前時までの学習を振り返る。 ・ 雲画像を日付順に並べると、雲の動きが分かりやすいな。 2 本時の学習問題をつかむ。	○ 2分程度で前時学習のポイントを中心に振り返らせ、本時学習とのつながりを意識させる。	雲画像のシート
		天気は、どのように変化していくのだろう。		
しらべる・ふかめる	班	3 9月7日から14日までの雲画像(衛星写真)を順に並べた資料を見て、天気の移り変わりについて話し合う。 ① 各地の天気の変化 ② 雲の動き ③ 今後の予想 等 4 話し合いの結果から気付いたことを発表する。 ・ 台風が近づいてくると天気が悪くなるな。 ・ 雲がかかると天気が悪くなるね。 ・ 雲は西から東に動いているな。 ・ 西に雲がないのに、天気が悪くなるのはどうしてかな。 5 気象衛星の雲画像をもとに、次の日の各地の天気を予想する。 ・ 雲が東に動くから晴れるんじゃないかな。	○ 自分の考えの根拠を明らかにしながら発言させることにより、自分の考えがよりわかりやすく聞き手に伝わるようにする。 ○ 雲の動きに着目させることにより、天気の変化と雲の動きの関連性に気付かせるようにする。	実物投影機
	個人	6 気象情報に関連する新聞記事を探し、気付いたことを発表する。 ・ 台風に関する記事が多いな。 ・ 天気だけではなく、月の満ち欠けなどの情報もあるな。	○ A3版のワークシートを使い、班で話し合いながら活動することができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">天気の変化の規則性に気付き、およそ西から東へ天気が変化していくことを理解する。(発言・記録)</div> ○ 見つけた記事を切り取ることはせず、紹介だけにする事により、よりたくさんの児童の発表を促すようにする。	ワークシート 各社の新聞
ひろげる	一斉	7 本時の学習をまとめる。	○ 課題についてまとめた板書を音読させることにより、本時学習の振り返りを確かなものにする。	
		8 次時の予告をする。	○ コンピュータの映像から天気の移り変わりと雲の動きを確認することを伝える。	

## エ 授業の実際

- まず、9月7日から14日までの雲画像（衛星写真）を順に並べた資料を見て天気の変り変わりについて話し合いを行った。ちょうど台風が発生していた時期であったため、日本に近づいた台風の動きをとらえることができた。



- 気象衛星の雲画像をもとに、次の日の各地の天気を予想する段階では、グループ学習用のワークシートを活用したことにより、友達と意見交換しながら天気の変り変わりについて考えることができた。
- 気象情報に関連する新聞記事を探し、気付いたことを発表する段階では、同じ内容の記事であっても各社ごとに取り上げる視点が異なっている点や、読みやすくするための構成の工夫がなされていることに気付くことができた。



## オ 授業後の感想

- 授業後の児童の感想には、「天気図を学び、自分で天気を予想した気分を味わえて楽しかった」「雲画像を使うことで、台風や雲の動きを分かりやすく学ぶことができた」ということが挙げられた。また、新燃岳の風向予測などにも着目している児童もおり、天気図だけではなく、様々な情報を収集する上でとても便利であるという感想も多くみられた。

## (2) 第5学年国語「新聞記事を読み比べよう」

### ア 単元の目標

- 新聞記事には意図があることを理解し、進んで書き手の意図を読み取ろうとしている。
- 写真や見出しに気をつけて二つの記事を読み比べ、それぞれの記事の内容やねらいの違いを読み取っている。
- 記事の内容や写真に合う効果的な見出しを書いている。

### イ 新聞の活用方法

- 新聞記事の中から自分が興味をもった記事を切り抜き、ノートに貼る。自分が選んだ記事の内容について簡単な感想や意見をノートにメモしておく。
- 見出しや割り付けなど、読者の注目を引くような新聞の書き方について学ぶ。

### ウ 授業の実際

- 今年度は5・6年の各学級（3クラス）に4か月間新聞を配付し、授業中はもとより、朝や帰りの会、休み時間等に児童が自由に見ることができるようにした。6社の新聞を前期と後期に分け、各学級でローテーションを組みながら配付することにより、複数の新聞社の紙面を比較することができるようにした。



- 各社の新聞を読み比べ、記事の内容や見出しの付け方、さらには構成の仕方等を学ぶことにより、読みやすくするための工夫を自分の記事作成に生かすことができた。

(3) 第4学年えびの学「川内川に学ぼう」

ア 単元の目標

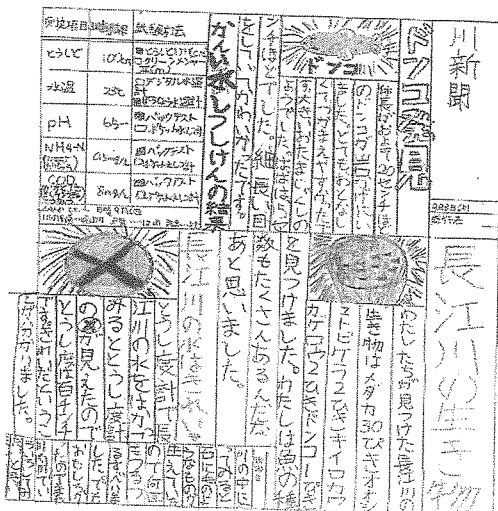
- 水質調査や調べ活動で分かったことを自分の考えや感想を交えながら新聞やポスターなどにまとめたり、発表したりすることができる。

イ 新聞の活用方法

- 学習したことをB4版の新聞にまとめていく際に実際の新聞を例示し、見出しの書き方や構成の仕方等、レイアウトの参考にさせた。

ウ 授業の実際

- 川内川新聞を書いていく中で、見出しの大きさや字体、文字の太さなどを変え



たり、イラストや表を挿入したりしながら、読み手に自分の調べた内容がよく伝わるように工夫していた。

(4) 係活動（5年：新聞係）

ア 指導のねらい

- 新聞記事をとおして日本や世界の動きに目を向けさせるとともに、新聞記事の切り抜き作業を日課とすることで、係活動の活性化を図る。

イ 新聞の活用方法

- 新聞係の児童がその日の記事の中から気になる話題を選び、記事を切り抜いて学級全体に紹介する。その後、切り抜いた記事を教室内の新聞コーナーに掲示する。

ウ 活動の実際

- 児童が日々新聞を開いて興味を引く記事を探すことにより、文字を読むことに対する抵抗が少なくなるとともに、情報収集の手段として新聞を活用しようとする意識が高まった。

4 実践を終えて

- 新聞を開くということは、新しい情報を自分の中に取り入れることであり、そのことが「面白そう」「なぜ」という知的好奇心を刺激することにつながる。2年間の実践を通して、児童の「知りたい」「学びたい」という意欲を高めることができたと感じている。

- 教科書に掲載されている資料は自分たちの住む地域の実情とはかけ離れていることが多いが、新聞は児童にとって身近な情報を収集することができるため、より興味・関心を高めることができた。